



JR東労組 八王子

# HACHIOJI



ホームページ

発行責任者  
執行委員長 針谷 歩

2021/7/31 No.13

## 首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて（その1）

### 【社員周知への時系列】

# 注目!

7月30日(金)

本部は14時に会社より説明を受けた。  
同日、夕方社員周知実施及び職場掲示。



### 首都圏における拠点配備体制の一部見直しについて～抜粋～

- ☞ メンテナンス部門として生産性の向上やコストダウンを図りながら、最適な体制で安全・安定輸送を確保していきます。
- ☞ 引き続き JR 社員自らが異常時対応を行うことで、故障の原因特定や仮復旧の処置など異常時の対応力のレベルアップに繋げていきます。

2021年7月

#### 首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて

設備・電気部門では、首都圏での地上設備故障発生時に即時に対応するため、JR・パートナー会社一体となった復旧拠点の配置や体制を強化してきました。今回、輸送影響度や出勤実績を勘案し、拠点配置体制の一部見直しとして以下の事項に取り組んでいます。

- メンテナンス部門として生産性の向上やコストダウンを図りながら、最適な体制で安全・安定輸送を確保していきます。
- 引き続き JR 社員自らが異常時対応を行うことで、故障の原因特定や仮復旧の処置など異常時の対応力のレベルアップに繋げていきます。

#### 1 拠点配置体制の見直し

○輸送影響度や出勤実績を勘案し、メリハリを付けた配置に見直します。具体的には、「優先復旧線区<sup>※</sup>及び山手線」とそれ以外の線区に区分し、一部の拠点を廃止します。（図1・2参照）

○輸送障害の復旧目標及び拠点対応時間帯（平日のラッシュ時間帯）は従前通りとします。なお、早朝・夕方の拠点配置体制については線区の実情により判断することとします。

※優先復旧線区とは、「防災業務実施計画」で規定される災害時に優先的に復旧させる線区を指します。  
具体的には、京浜東北線（大宮～根岸町）、中央本線（東京～船橋）、中央・総武緩行線（水戸線～千葉）、東海道本線（東京～大船）、常磐線（上野～取手）、埼京線（池袋～大宮）を指します。

#### 2 これまでと変わらない取組み

- 今回、輸送影響度や出勤実績を勘案し拠点配置の一部見直しますが、異常時の早期復旧を旨としていくことには変わりはありません。
- そのため、系統や職場を越えた障害復旧訓練を実施することや、今回廃止した一部の復旧拠点を多客輸送期間等の対応拠点として今後も活用する予定です。
- このような取組みを通じ、お客さま視点の徹底と「考動」の実践により、異常時対応力のレベルアップを目指していきます。

#### 3 開始時期について

本見直しの開始時期は、2021年10月1日とします。

### 拠点配置体制(保線)

対象エリア	現行	見直し後	
	概ね東京50km圏内	優先復旧線区及び山手線	左記を除く概ね50km圏内
社員配置	JR社員1名・パートナー会社1名	JR社員2名を基本※ (宿直1名・夜間作業員1名)	JR社員1名を基本 (宿直1名)

#### 【変更点】

- ・押島が拠点廃止箇所となる。
- ・パートナー会社の拠点配備をせず JR 社員2名(宿直1名・夜間作業員1名)を基本。

### 拠点配置体制(信号)

対象エリア	現行	見直し後	
	概ね東京50km圏内	優先復旧線区及び山手線	左記を除く概ね50km圏内
社員配置	JR社員2名を基本 (一部拠点はパートナー会社に委託)	JR社員2名を基本 (宿直2名)	JR社員2名を基本 (宿直2名)

- ・三鷹が拠点廃止箇所となる。
- ・パートナー会社の拠点配備をせず JR 社員2名を基本。

# 職場現実を共有し、安全な職場を作り出そう!!

